

そうだったのか！ 土

益城町立広安西小学校 6年 松永 辰樹

1 研究の目的

土には、植物が成長したり虫の巣になったりする場所によって、色や大きさが違うなどの特徴があるのでそれぞれの土の違いを調べた。

2 観察の方法

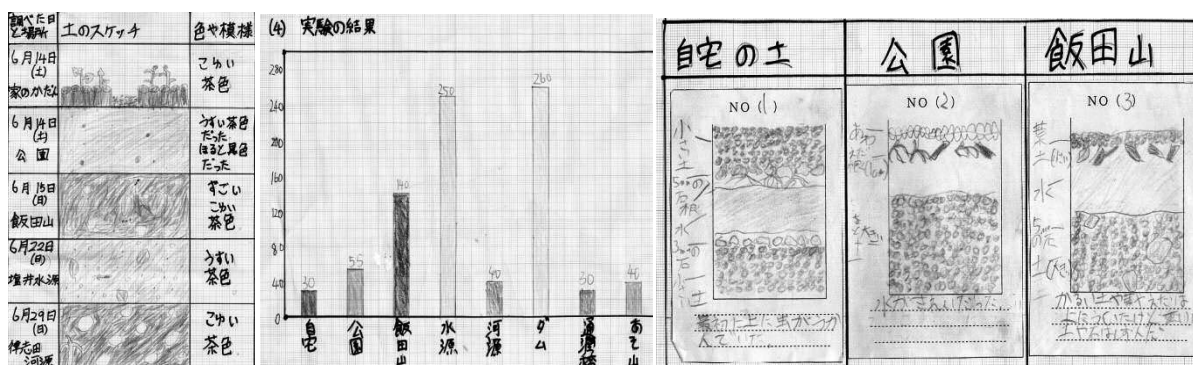
- (1) 山、海、住宅街、川の上流から下流まで（自宅周辺、公園、飯田山、塩井水源、緑川ダム、通潤橋周辺、阿蘇山頂、緑川河口、宇土市海辺）の土の色や粒の大きさの違いを観察する。
- (2) 土の酸性度を調べる。
- (3) 土の力（養分による成長の違い）を、はつか大根の種をまいて調べる。
- (4) 自作の実験器具を使って、土の保水力を調べる。
- (5) 解剖顕微鏡を使って、土の中に含まれているものを観察する。
- (6) 解剖顕微鏡を使って、土の成分を調べる。

3 研究の結果

〈観察 1 色や粒〉

〈実験 4 保水力〉

〈観察 6 土に含まれているもの〉



4 考察・まとめ

- ・土は、色や大きさ、触った感じ、含まれているものが場所によって違う。
- ・土は、ほとんどが弱酸性か中性だった。阿蘇山頂だけがアルカリ性だった。
- ・阿蘇山頂と通潤橋周辺の土は、はつか大根が 20 cm以上成長した。緑川河口、海辺はあまり成長しなかった。
- ・緑川ダム周辺や海辺の土は保水力が低く水をよく通した。自宅、通潤橋、緑川河口周辺の土は保水力が高い。
- ・土には、虫の卵やくだけた貝のかけらがたくさん含まれていた。塩井水源や緑川ダム周辺の土は、石のように固まった土の粒がたくさん見られた。
- ・はつか大根は、pHがアルカリ性や中性で保水力が高く大きな石が少ない、通潤橋や阿蘇周辺の土がよく育った。
- ・草がいっぱい生えている場所では、土の中にすき間が少なく、保水力が高かった。